

平成 25 年度 学校関係者 評価書

平成26年1月24日

学校名	美 称 市 立 麦 川 小 学 校		
教育目標	かかわり合いをとおして、夢に向かってがんばる子ども		
重点目標	1 個に応じた基礎学力の定着 個に応じた基礎学力の定着を図る授業づくり すすんで毎日読書をしよう (チャレンジ目標)	2 心の安心づくり 思いやりの心を育む教育活動と縦割り班活動の実践 大きな声で自分からあいさつをしよう (チャレンジ目標)	3 保護者・地域との連携 課題を共有し、協働して解決していく組織体制の機能化
1 取組の状況に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> 複式指導に ICT の活用の取組により指導の工夫がなされている。 中学では10分×学年=70分としているので、小学校の家庭学習の取組と連携している。 複式授業では、先生方の連携がとれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の取組をどう評価しているのかがわからない。 委員会児童の「ニコちゃん掲示」などは、よく工夫されており、感心する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人の知恵を借りて子どもの教育が充実している。
2 目標の達成状況による意見	<ul style="list-style-type: none"> 中学では肯定率が低くなっている。 児童は、授業に集中できてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が先生に言われるからするのではなく、自然に自分からあいさつできるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム・テレビ視聴2時間は、家庭では難しいことがアンケート結果でよくわかる。
3 取組の適切さの検証結果に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 先生の授業力が上がってきている気がする。 国語の力がもう少しつくとよい。 文を読み取る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ありがとう作戦」は各地域で児童が自分の地域に感謝をあらわす取組で地域からも目に見える活動でよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活の習慣化はやはり保護者としっかり連携をしていかなければならない。 カードなどを使った取組さらに継続して成果をあげることが課題である。
4 改善方策に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 麦っ子塾の「カルタ大会」などとも関連づけて、保護者と一緒に学ぶ場を大切にしていきたい。 チャレンジ目標に親子で取り組んでいるので、繰り返し目標に向けて意識を継続させていく手立てが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 親子のあいさつ・地域の人からのあいさつなどは、児童のあいさつを奨励していく上で大切な役割がある。 中学生には、「人に伝わるあいさつ」をするように指導している。 アンケート項目の「思いやり」の文章を児童が答えやすいように検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の現状を伝えて地域の皆さんの知恵を借りたい。 高齢者とのふれあいの場をひろげて必要がある。 学校の先生の授業を公開するなど工夫をして、学校にきてもらう取組をしていくとよい。
学校運営の改善に関する意見	コミュニティスクールに向けて、学校と保護者・地域が連携していけるような組織づくりへとさらに取り組んでほしい。		